

授業科目 (科目ID)	介護過程の基礎	担当教員  (実務経験)	宮下 史恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として社会福祉協議会に勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	介護福祉士として専門的な見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	介護過程の展開を理解し、介護福祉士として専門的な見地から利用者を適切に捉え、本人主体の介護過程を展開できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験、提出物、グループワークへの参加態度などから総合的に評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	テキストをベースに「読む」、「考える」、「書く」、「伝える」講義を中心に、展開過程の演習(事例検討・グループワーク)を並行し「理解する」、「できる」講義を進めていきます。また、講義内容に沿ったプリント配布があるため、各自でファイルを用意し、ノートやプリントの整理を行ってください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護過程の意義・目的	介護過程の意義と目的		
	2	介護過程の構成要素	介護過程の展開・全体像		
	3	介護過程とICF①	ICFの視点と介護過程の関係		
	4	介護過程とICF②	ICFを活用した情報収集(個人ワーク①)		
	5	介護過程とICF③	ICFを活用した情報収集(個人ワーク②)		
	6	介護過程とICF④	ICFを活用した情報収集(グループワーク)		
	7	介護過程とICF⑤	ICFを活用した情報収集(発表)		
	8	アセスメント(情報収集)①	情報収集の意義・アセスメントの視点		
	9	アセスメント(情報収集)②	情報収集と記録(ケーススタディの記録方法①)		
	10	アセスメント(情報収集)③	情報収集と記録(ケーススタディの記録方法②)		
	11	アセスメント(情報収集)④	事例検討 I (情報収集の個人ワーク①)		
	12	アセスメント(情報収集)⑤	事例検討 I (情報収集の個人ワーク②)		
	13	アセスメント(情報収集)⑥	事例検討 I (情報収集の個人ワーク③)		
	14	アセスメント(解釈・関連付け・統合化)	アセスメントの実際(解説と簡単な個人演習)		
15	まとめ	介護過程の基礎まとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護過程の実践 I		担当教員  (実務経験)	高橋 綾  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 3単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	23回	時間数 45時間
授業目的	介護福祉士として専門的見地から介護を提供できるように、対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程の展開をできる能力を養う。				
到達目標	本人の望む生活の実現にむけて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程、チームとしての介護過程展開能力を習得する。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	その他は、提出課題の内容や提出期限、授業への取り組み姿勢、グループワークや発表への積極的姿勢など総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
その他	30%				
履修上の 留意事項	講義や演習では学生参加型授業が主となります。理解できない場合は質問するなど、積極的な参加を求めます。介護サービス提供に向けて大切な授業です。授業中に課した課題を次回の授業教材として使用する場合がありますので、課題の提出期限は必ず守ってください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護過程の基礎の振り返り	介護過程の基礎の振り返り		
	2	アセスメント(解釈・関連付け・統合化)①	アセスメント(解釈・関連付け・統合化)について		
	3	アセスメント(解釈・関連付け・統合化)②	事例検討Ⅰ(アセスメント・個人演習)		
	4	アセスメント(解釈・関連付け・統合化)③	事例検討Ⅰ(アセスメント・グループワーク)		
	5	アセスメント(解釈・関連付け・統合化)④	事例検討Ⅰ(アセスメント・グループワーク)		
	6	介護計画立案①	介護計画立案について		
	7	介護計画立案②	事例検討Ⅰ(介護計画立案・個人演習)		
	8	介護計画立案③	事例検討Ⅰ(介護計画立案・グループワーク)		
	9	介護計画立案④	事例検討Ⅰ(介護計画立案・グループワーク)		
	10	事例検討	事例検討Ⅱ(アセスメント)		
	11	事例検討	事例検討Ⅱ(アセスメント)		
	12	事例検討	事例検討Ⅱ(介護計画立案)		
	13	事例検討	事例検討Ⅱ(介護計画立案)		
	14	事例検討	事例検討Ⅲ(自身の実習事例から～個人ワーク①)		
15	事例検討	事例検討Ⅲ(自身の実習事例から～個人ワーク②)			

履修主題・履修内容	16	事例検討	事例検討Ⅲ(自身の実習事例から～個人ワーク③)
	17	事例検討	事例検討Ⅲ(自身の実習事例から～個人ワーク④)
	18	介護過程とケアマネジメント①	介護過程とケアマネジメントの関係性
	19	介護過程とケアマネジメント②	チームアプローチにおける介護福祉士の役割①
	20	介護過程とケアマネジメント③	チームアプローチにおける介護福祉士の役割②
	21	国家試験対策模擬問題①	国家試験対策模擬問題①
	22	国家試験対策模擬問題②	国家試験対策模擬問題②
	23	まとめ	介護過程の実践Ⅰまとめ

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護総合演習 I		担当教員	山谷 博美	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	介護福祉基礎実習及び介護福祉実習 I における事前、事後学習として位置付け、実習に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。				
到達目標	介護福祉実習に必要とされる施設や利用者理解、記録方法の理解、行事プログラムの計画や実践など介護実践に必要な能力を身につける。また実習を振り返り、介護の知識と技術を実践へと結び付けることができる。				
テキスト・参考図書等	『最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和5年度介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	課題の内容、提出状況、実習の進め方や記録方法の理解度にて総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の 留意事項	提出物は施設に提出するものもあり、期限厳守をお願いします。理解できないままにしておくとう介護福祉実習に影響します。不安なく実習に向かえるよう積極的に取り組んでください。原則欠席をしないことですが、欠席した場合は翌登校時に必ず教員のところへ確認に来るようにしてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	介護実習の意義と目的(山谷)	介護実習の意義と目的、到達目標、学習区分と学習内容		
	2	実習施設の理解①(泉)	介護福祉基礎実習①の事業所理解について		
	3	実習施設の理解②(泉)	介護福祉基礎実習①の事業所理解について、実習目標		
	4	記録物について①(泉・高橋)	個人票の作成①		
	5	記録物について②(泉・高橋)	個人票の作成②、誓約書・同意書の作成		
	6	記録物について③(山谷・泉)	実習日誌の目的、目標設定と記録方法、実習日誌の練習①		
	7	実習心得(泉・高橋)	実習の心得、接遇マナー、電話対応		
	8	行事運営の理解①(高橋)	外出レクリエーション計画作成①		
	9	行事運営の理解②(高橋)	外出レクリエーション計画作成②、実習日誌の練習②		
	10	介護福祉基礎実習①オリエンテーション(泉・高橋・山谷)	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状		
	11	介護福祉基礎実習①まとめ(泉・高橋・山谷)	介護福祉基礎実習①の振り返り、自己評価		
	12	実習施設の理解③(高橋)	介護福祉基礎実習②の事業所理解について		
13	実習施設の理解④(高橋)	介護福祉基礎実習②の事業所理解について、実習目標			

	14	介護福祉基礎実習②オリエンテーション(泉・高橋・山谷)	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	15	介護福祉基礎実習②まとめ(泉・高橋・山谷)	介護福祉基礎実習②の振り返り、自己評価
履修主題・履修内容	16	介護福祉実習Ⅱ報告会(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅱ報告会に参加
	17	実習施設の理解⑤(高橋)	介護福祉基礎実習③の事業所理解について
	18	実習施設の理解⑥(高橋)	介護福祉基礎実習③の事業所理解について、実習目標
	19	介護福祉基礎実習③オリエンテーション(泉・高橋・山谷)	実習評価について、記録物の確認、提出方法と確認、お礼状
	20	介護福祉基礎実習③まとめ(泉・高橋・山谷)	介護福祉基礎実習③の振り返り、自己評価
	21	実習計画の作成①(山谷)	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成
	22	実習計画の作成②(山谷)	自己の実習計画をイメージし、週別目標を作成
	23	介護福祉実習Ⅰオリエンテーション(泉・高橋・山谷)	カンファレンスの目的と記録、実施方法、記録物の提出方法、実習後のスケジュール
	24	介護福祉実習Ⅰまとめ①(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅰ振り返り①
	25	介護福祉実習Ⅰまとめ②(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅰ振り返り②
	26	介護福祉実習Ⅰまとめ③(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅰ振り返り③
	27	介護福祉実習Ⅰ報告会(泉・高橋・山谷)	介護福祉実習Ⅰ報告会
	28	介護福祉実習Ⅰ後学習①(泉・高橋・山谷)	自己評価、自己覚知、2年次実習へ向けた課題
	29	介護福祉実習Ⅰ後学習②(高橋)	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制①
	30	介護福祉実習Ⅰ後学習③(高橋)	福祉施設と地域の繋がり、社会支援体制②



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護福祉基礎実習	担当教員  (実務経験)	山谷 博美  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護	
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数
授業形態	実習	授業回数(1回90分)		時間数
授業目的	1. 住み慣れた地域で暮らす高齢者や障害のある人が、その人らしく生活している状況を理解し、生活支援のあり方を学ぶ。 2. 人間関係を形成しながら、個別ケアの重要性について学ぶ。			
到達目標	令和5年度介護福祉実習要項参照			
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和5年度介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校			
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準	
	試験	%	実習先評価及び学校評価を総合的に判断する。	
	レポート	%		
	小テスト	%		
	提出物	%		
	その他	100%		
履修上の 留意事項	介護福祉基礎実習を実践するためには、とりわけ介護総合演習Ⅰにおける事前学習での学びが重要となります。またその他の 解して、実習の場において対象者に対応するための基礎的知識を身に付けておくこと。			
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容	
		介護福祉の役割と機能 (山谷・阿部・高橋)	地域における多様な生活の場の社会的な役割を	
		介護福祉の役割と機能 (山谷・阿部・高橋)	入所介護・通所介護の必要性を学ぶ	
		介護福祉の役割と機能 (山谷・阿部・高橋)	介護福祉の社会的な役割を考える	
		利用者の理解 (山谷・阿部・高橋)	地域における生活、日常生活について理解する	
		利用者の理解 (山谷・阿部・高橋)	地域における生活を支える社会資源と支援制度を	
		利用者の理解 (山谷・阿部・高橋)	コミュニケーションを実践して、人間的関わりの基	
		専門職としての役割及び介護実践 (山谷・阿部・高橋)	利用者の様々な生活の場における、介護福祉士	
		専門職としての役割及び介護実践 (山谷・阿部・高橋)	安全に配慮した基礎的な介護技術・知識を学ぶ	
		その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする		

■老人保健施設に勤務

2単位

96時間

○科目における学びを十分に理

理解する

を学ぶ

礎を学ぶ

の役割を学ぶ





2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	介護福祉実習 I		担当教員  (実務経験)	山谷 博美  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として介護老人保健施設に勤務	
対象年次・学期	1年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 3単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)		時間数 160時間
授業目的	1. 様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、総合的に利用者の日常生活援助のできる能力を養う。 2. 専門職としての職業倫理を身につけ、保健・医療・福祉の連携、チームの中で実践する能力を養う。				
到達目標	令和5年度介護福祉実習要項参照				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『令和5年度介護福祉実習要項』 学校法人吉田学園 専門学校北海道福祉・保育大学校				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	実習先評価及び学校評価を総合的に判断する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の 留意事項	介護実習を実践するためには、とりわけ介護総合演習 I における事前学習での学びが重要となります。またその他の科目における学びを十分に理解して、実習の場において対象者に対応するための基礎的知識を身につけておくこと。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
		介護福祉の役割と機能 (山谷・阿部・高橋)	地域における様々な場(施設・居宅等)の社会的な役割を学ぶ		
		介護福祉の役割と機能 (山谷・阿部・高橋)	介護福祉の社会的な役割を学ぶ		
		利用者理解 (山谷・阿部・高橋)	利用者の生活の場、日常生活について理解する		
		利用者理解 (山谷・阿部・高橋)	利用者及び家族とのコミュニケーションを実践し、人間関係の形成ができる		
		利用者理解 (山谷・阿部・高橋)	受け持ち利用者との関わりから、情報収集の必要性を理解する		
		介護実践 (山谷・阿部・高橋)	基本的な生活支援技術を実践し、日常生活援助に関する能力を高める		
		介護実践 (山谷・阿部・高橋)	住環境設備、福祉機器に関する知識及びその活用方法を身につける		
		介護実践 (山谷・阿部・高橋)	介護実践の根拠を理解し、相手の立場で考える習慣を身につける		
		介護実践 (山谷・阿部・高橋)	対象者との関わりを体験し、介護ニーズに対応できる知識と能力を身につける		
		専門職としての役割と職業倫理 (山谷・阿部・高橋)	介護福祉士の業務を理解する		
		専門職としての役割と職業倫理 (山谷・阿部・高橋)	介護福祉を学ぶ学生として自己を振り返る場とする		
		専門職としての役割と職業倫理 (山谷・阿部・高橋)	専門職としての職業倫理を身につける		
		その他詳細は介護福祉実習要項を参照とする			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	こころとからだのしくみⅡ		担当教員  (実務経験)	畠田 美穂子  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	心理学的側面からのこころのしくみおよび解剖・生理学的側面からのからだのしくみについての基礎知識を学びます。				
到達目標	介護を必要とする人の生活を心身両面から支援するに当たって、最も適切で効果的な支援のあり方を判断する能力を獲得することを目指します。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	期末テスト、提出物、グループワーク参加状況、ミニテストを総合して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	教科書と授業内容に沿った資料配布、グループワークを行います。簡単なミニテスト、提出物、感想などを求めることがあります。人のこころやからだを理解するうえで基本的な内容を学ぶ科目です。積極的に参加して頂くことを期待します。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	健康とは	健康の定義、健康づくり、健康観		
	2	欲求と自己実現、生きがい	マズローの欲求5段階説の現代的意義		
	3	こころ、学習・記憶・思考	こころの意味、学習・記憶・思考の意味と内容		
	4	感情、意欲・動機づけ、適応	感情の種類と内容、意欲・動機づけの意味と内容、適応の心理機制		
	5	心身の調和、生命維持と恒常性	自律神経系・内分泌系・免疫系の相互作用による生理的恒常性と適応性 バイタルサイン		
	6	細胞・遺伝	細胞の構造と働き、遺伝子の働きと遺伝		
	7	脳・神経	脳と神経のしくみと働き		
	8	感覚器	感覚器のしくみと働き		
	9	呼吸器、泌尿器	呼吸器、泌尿器のしくみと働き		
	10	消化器	消化器のしくみと働き		
	11	生殖器・内分泌	生殖器と内分泌のしくみと働き		
	12	循環器、血液・リンパ	循環器、血液・リンパのしくみと働き		
	13	加齢による機能低下、骨・関節の動き	加齢による機能低下、骨・関節の動きと役割		
	14	筋肉	筋肉のしくみと働き		
15	薬、まとめ	福祉職に必要な薬の知識、要点と確認のまとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	こころとからだのしくみⅢ		担当教員  (実務経験)	喜田 俊恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	人のこころやからだを理解する上での基本的内容を学ぶ。身じたく、移動、食事、入浴などの生活活動に対して、そのしくみや加齢による変化、及び心理的側面への配慮を学ぶ。				
到達目標	日常生活動作を行う際の身体のしくみについて、専門職としての必要な知識を述べる事が出来る。 介護を実践するにあたり、ケアの根拠を説明することが出来る。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	定期試験、小テスト、授業での積極的発言、グループワークでの参加態度を総合的に勘案し評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	教科書に基づき講義・演習と定期的な小テストを行います。生活支援技術と関連付けて学習して下さい。覚えなければならないことがたくさんあります。積極的に授業に参加して、知識を深めていって下さい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	こころとからだのしくみとは何か 授業の進め方について		
	2	移動に関連したこころとからだのしくみ	移動のしくみ		
	3	移動に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が移動に及ぼす影響		
	4	移動に関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応・演習		
	5	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくのしくみ		
	6	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	身じたくのしくみ		
	7	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響		
	8	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応		
	9	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	演習		
	10	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事のしくみ		
	11	食事に関連したこころとからだのしくみ	食事のしくみ		
	12	食事に関連したこころとからだのしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響		
	13	食事に関連したこころとからだのしくみ	変化の気づきと対応		
	14	食事に関連したこころとからだのしくみ	演習		
15	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	入浴・清潔保持のしくみ			

履修主題・履修内容	16	入浴・清潔保持に関連したところからのしぐみ	入浴・清潔保持にしぐみ
	17	入浴・清潔保持に関連したところからのしぐみ	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
	18	入浴・清潔保持に関連したところからのしぐみ	変化の気づきと対応
	19	入浴・清潔保持に関連したところからのしぐみ	演習
	20	排泄に関連したところからのしぐみ	排泄のしぐみ
	21	排泄に関連したところからのしぐみ	排泄のしぐみ
	22	排泄に関連したところからのしぐみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響
	23	排泄に関連したところからのしぐみ	変化の気づきと対応・演習
	24	休息・睡眠に関連したところからのしぐみ	休息・睡眠のしぐみ
	25	休息・睡眠に関連したところからのしぐみ	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響
	26	休息・睡眠に関連したところからのしぐみ	変化に気づくためのポイント
	27	人生の最終段階のケアに関連したところからのしぐみ	「死」を理解する
	28	人生の最終段階のケアに関連したところからのしぐみ	終末期から「死」までの変化と特徴
	29	人生の最終段階のケアに関連したところからのしぐみ	「死」に対するところの理解 医療職との連携のポイント・演習
30	まとめ	全体のまとめ	

2019年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	特別活動		担当教員  (実務経験)	担任		
				有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	講義・演習・見学		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	高い倫理観と思いやりのある幅広い人間性を兼ね備えた専門職になるために、福祉分野の理解を深める。					
到達目標	①各活動に積極的に参加する。②介護福祉士の活躍の場を述べるができる。③地域や他との交流を深める。					
テキスト・参考図書等	必要時資料を配布します。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	出席状況、参加姿勢、取り組み、役割、提出課題など、総合的に勘案し評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	100%				
履修上の 留意事項	一つ一つ大切な履修になります。体調管理をし休まないようにしましょう。交流会では2年生との交流を深め学生生活のヒントを見つけて下さい。日程調整をしながら進行します。履修順番は変わることもあります。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	就職活動について①	就職活動の流れを理解し、具体的に自分の行動がイメージできる。			
	2	就職活動について②	履歴書記載の注意事項を理解し、下書きをする。自己アピールできる。			
	3	就職活動について③	就職セミナーを受け、より具体的な就職活動を予測できる。①			
	4	就職活動について④	就職セミナーを受け、より具体的な就職活動を予測できる。②			
	5	就職活動について⑤	就職セミナーを受け、より具体的な就職活動を予測できる。③			
	6	施設理解(就労支援施設)	障害を抱えた人の生活理解、施設の働きを理解する。			
	7	施設理解(就労支援施設)	障害を抱えた人の生活理解、施設の働きを理解する。			
	8	施設理解(視覚支援学校)	視覚障害児・者の理解を深め介護福祉士の役割を予測できる。			
	9	施設理解(視覚支援学校)	視覚障害児・者の理解を深め介護福祉士の役割を予測できる。			
	10	地域交流①	地域住民と交流を深め、介護福祉士に求められることについて考える。			
	11	地域交流②	地域住民と交流を深め、介護福祉士に求められることについて考える。			
	12	1年生との交流会①	後輩と協力し、交流が深まる企画・運営をする。			
	13	1年生との交流会②	後輩と協力し、交流が深まる企画・運営をする。			
	14	社会人常識マナー検定	社会人常識マナー検定のテキストに取り組み合格を目指す			
15	社会人常識マナー検定	社会人常識マナー検定のテキストに取り組み合格を目指す				

2019年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	特別活動		担当教員  (実務経験)	担任  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
	対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必須	単位数	1単位
授業形態	講義・演習・見学		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	高い倫理観と思いやりのある幅広い人間性を兼ね備えた専門職になるために、福祉分野の理解を深める。					
到達目標	①各活動に積極的に参加する。②介護福祉士の活躍の場を述べるができる。③地域や他との交流を深める。					
テキスト・ 参考図書等	必要時資料を配布します。					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	出席状況、参加姿勢、取り組み、役割、提出課題など、総合的に勘案し評価します。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	100%				
履修上の 留意事項	一つ一つ大切な履修になります。体調管理をし休まないようにしましょう。交流会では2年生との交流を深め学生生活のヒントを見つけて下さい。日程調整をしながら進行します。順番は変わることもあります。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	専門課程を学ぶにあたって	資料を配布し、ファイリングの仕方や今後の勉強の方法を学ぶ。			
	2	ボランティア活動参加①	豊かな森林の恵みを学び、緑の募金活動に参加する。①			
	3	ボランティア活動参加①	豊かな森林の恵みを学び、緑の募金活動に参加する。②			
	4	施設理解①(特別養護老人ホーム)	施設見学を通し、仕事理解、種別理解、入居者の理解を深める。①			
	5	施設理解②(特別養護老人ホーム)	施設見学を通し、仕事理解、種別理解、入居者の理解を深める。②			
	6	施設理解③(障害児・者施設又は支援学校見学)	施設見学を通し、仕事理解、種別理解、入居者の理解を深める。③			
	7	施設理解④(障害児・者施設又は支援学校見学)	施設見学を通し、仕事理解、種別理解、入居者の理解を深める。④			
	8	2年生との交流会①	先輩と協力し、交流が深まる企画・運営をする。			
	9	2年生との交流会②	先輩と協力し、交流が深まる企画・運営をする。			
	10	障害を抱えた人と交流し生活を理解する	障害者スポーツ選手の講話後、実際にバラスポーツを体験し理解を深める			
	11	障害を抱えた人と交流し生活を理解する	障害者スポーツ選手の講話後、実際にバラスポーツを体験し理解を深める			
	12	体験学習①	さまざまな福祉機器(介護ロボットなど)を見て、触れて、体験し理解を深める。			
	13	体験学習②	さまざまな福祉機器(介護ロボットなど)を見て、触れて、体験し理解を深める。			
	14	STDについて	映像教材(DVD)を見て問題を考えることができ討議できる。			
15	卒業生3名による講話	介護福祉士の仕事、活躍の場の理解を深める				



授業科目 (科目ID)	発達と老化の理解		担当教員  (実務経験)	阿部 幸恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として病院に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。				
到達目標	介護実践に必要な根拠となる心身の構造、機能、発達段階とその課題及び特徴的な疾病について述べられる。				
テキスト・参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座12 発達と老化の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 『からだの地図帳 新版』佐藤達夫 講談社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記「小テスト」は、単元ごとに小テストを実施します。</li> <li>・左記「提出物」は、DVD鑑賞後の感想その他必要に応じてプリントの確認のための提出を求めます。</li> <li>・左記「その他」は、積極的発言や授業参加姿勢、必要資料の準備が整っているなどが含まれます。以上を総合的に勘案します。</li> </ul>		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
その他	10%				
履修上の留意事項	毎回内容が違いますから休まないように自己の体調管理をしてください。休んだ際は必ず担当まで確認に来てください。少し難しい分野かもしれませんが、積極的に授業に参加してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識	オリエンテーション 成長・発達の考え方		
	2	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の原則・影響する要因		
	3	第2章 人間の発達段階と発達課題	発達理論・発達段階と発達課題		
	4	第2章 人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達 心理的機能・社会的機能の発達		
	5	第3章 老年期の特徴と発達課題	老年期の定義 老化とは		
	6	第3章 老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題 老年期をめぐる今日的課題		
	7	第4章 老化に伴うところからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響①		
	8	第4章 老化に伴うところからだの変化と生活	老化に伴う身体的な変化と生活への影響②		
	9	第4章 老化に伴うところからだの変化と生活	老化に伴う心理的な変化と生活への影響 注意と記憶 パーソナリティ		
	10	第4章 老化に伴うところからだの変化と生活	老化に伴う社会的な変化と生活への影響 老化理論		
	11	第5章 高齢者と健康	高齢者の健康が注目されるようになった背景と疾患の症状と特徴を理解する		
	12	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系(骨粗鬆症・骨折など)		
	13	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	骨関節系(変形性膝関節症・腰部脊柱管狭窄症、関節リウマチなど)		
	14	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系(パーキンソン病)		
15	ここまでの振り返り	ここまでのまとめ 振り返り			

履修主題・履修内容	16	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系(脳血管疾患)
	17	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	脳・神経系(脳血管疾患)
	18	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	皮膚・感覚器系(白内障・緑内障・黄斑変性症・難聴・皮膚疾患)
	19	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系(高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症)
	20	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	循環器系(高血圧・虚血性心疾患・不整脈・心不全・閉塞性動脈硬化症)
	21	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	呼吸器系(慢性閉塞性肺疾患・肺炎・喘息・結核)
	22	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	消化器系(消化性潰瘍・逆流性食道炎・肝硬変など)
	23	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	腎・泌尿器系(前立腺肥大症・尿路感染症・慢性腎臓病・(復習/尿失禁))
	24	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	内分泌・代謝系(糖尿病・脂質異常症・痛風など)
	25	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	歯・口腔疾患(歯周病・ドライマウス) 悪性新生物(概要・変遷・法律など)
	26	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	さまざまな悪性新生物(がん)について
	27	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	感染症(ウイルス性呼吸器感染症・感染性胃腸炎・胆のう炎・胆管炎・疥癬)
	28	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	精神疾患(うつ病・統合失調症)
	29	第5章 高齢者と健康 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	その他(熱中症・脱水・貧血) 多職種連携
30	まとめ	今までの振りかえりとまとめ	

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	認知症の理解 I		担当教員  (実務経験)	宮下 史恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として社会福祉協議会に勤務	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	認知症についての理解を深めるとともに、認知症の人の理解を深めていきます。				
到達目標	認知症とは何か、認知症をきたす様々な疾患について説明できることを目標とします。				
テキスト・ 参考図書等	「最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第2版」介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 (参考図書)『実践・パーソン・センタード・ケア 認知症をもつ人たちの支援のために』水野裕 ワールドプランニング				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験70%、レポート20%、ミニテスト10%とし判断します。		
	レポート	20%			
	小テスト	10%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	テキスト、最近のニュース、自身の体験などをもとに、授業展開をします。DVDなどの映像教材、グループディスカッションなどによりさらに理解を深めていきます。この授業は介護福祉士になるうえで、必ず身に付けたいスキルとなります。自ら学ぶ姿勢をもって、積極的に授業への参加を望みます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	本授業の進め方、キーワード、認知症からイメージするもの		
	2	認知症とは ①	認知症の特徴 脳のしくみ 初期の生活障害		
	3	認知症とは ②	脳を構成する細胞 脳の働き		
	4	認知症とは ③	脳の構造と症状の関係 せん妄、老化との関係		
	5	認知症の人の心理	パーソン・センタード・ケア DVD鑑賞		
	6	認知症のさまざまな症状 ①	中核症状の理解		
	7	認知症のさまざまな症状 ②	生活障害の理解		
	8	認知症のさまざまな症状 ③	BPSDの理解		
	9	認知症の検査	認知症の診断、原因疾患と症状・生活障害		
	10	認知症の原因疾患 ①	アルツハイマー型認知症 血管性認知症		
	11	認知症の原因疾患 ②	レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 他		
	12	認知症の予防	認知症の歴史、予防・危険因子		
	13	認知症のケア	認知症ケアの理念と視点		
	14	認知症の人の体験	認知症当事者の視点		
15	まとめ	認知症の理解 I を通して			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	障害者福祉論		担当教員  (実務経験)	山口 ゆか  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として福祉事業所に勤務	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	障がいのある方への生活支援に携われるよう各種の障がいについて学習していく。				
到達目標	あらゆる事態を想定し、利用者の最善の利益を考られるよう、広い視野をもち持続可能な介護福祉士としての要素を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	定期テスト50%、レポート 20%、小テスト 20%、平常点10%として評価する。		
	レポート	20%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	障がいとは		
	2	障害の概念	障害の捉え方、ICIDHからICFへの変遷		
	3	障害者福祉の基本理念	ノーマライゼーション、リハビリテーション		
	4	当事者の体験	当事者の困り感を体験を通じて感じる 演習		
	5	障害者福祉に関する制度	障害者差別解消法、虐待防止法		
	6	障害福祉サービス	障害者総合支援法とは		
	7	地域のサポート体制	提供の仕組み、連携		
	8	当事者の体験	当事者の困り感を体験を通じて感じる 演習		
	9	地域のサポート体制とチームアプローチ	チームとは、チームづくりの留意点		
	10	チームアプローチの実践	演習		
	11	ご家族への支援	ご家族に障がいのある方たちの実際		
	12	実践報告	強度行動障害のある方の事例		
	13	障がいのある方へのコミュニケーション方法	演習		
	14	札幌市の障がい福祉サービス	札幌市行動援護ネットワークの方のお話		
15	全体のまとめ	これまでのおさらい			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	障害者支援		担当教員  (実務経験)	山口 ゆか  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士として福祉事業所に勤務	
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	障がいのある方への生活支援に携われるよう各種の障がいについて学習していく。				
到達目標	あらゆる事態を想定し、利用者の最善の利益を考えられることの出来る視野が広く、持続可能な介護福祉士となること。				
テキスト・ 参考図書等	『最新・介護福祉士養成講座14 障害の理解 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期テスト60%、提出物30%、平常点10%として評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション(山口)	社会的障壁と合理的配慮		
	2	障害のある人の心理(登り口)	人間の欲求、適応機制、障害受容		
	3	肢体不自由(登り口)	種類、原因、特性、理解、支援		
	4	視覚障害(山口)	種類、原因、特性、理解、支援		
	5	聴覚・言語障害(山口)	種類、原因、特性、理解、支援		
	6	重複障害(山口)	種類、原因、特性、理解、重複障害児・者支援		
	7	内部障害①(登り口)	心臓、呼吸器、腎臓、膀胱、直腸について		
	8	内部障害②(登り口)	小腸、ヒト免疫不全ウイルス、肝臓について		
	9	重症心身障害(登り口)	種類、原因、特性、理解、支援		
	10	知的障害(山口)	理解、支援、ライフステージに応じた生活		
	11	精神障害(山口)	種類、原因、特性、理解、支援		
	12	高次脳機能障害(山口)	種類、原因、特性、理解、支援		
	13	発達障害(山口)	種類、特性、理解、支援		
	14	難病(登り口)	特性、理解、支援		
15	全体のまとめ(山口)	これまでのおさらい			



2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

介護福祉学科

授業科目 (科目ID)	キャリアデザイン I		担当教員  (実務経験)	高橋 綾  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 介護福祉士としてケアハウスに勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8回	時間数 15時間
授業目的	高い倫理観と思いやりのある幅広い人間性を兼ね備えた専門職になるために、福祉分野の理解を深める。				
到達目標	幅広い福祉に関する活動への参加や体験を通して、多様化する社会に応じた介護福祉職に必要な知識と人間性を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	必要時、資料を配布します。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出課題、活動の参加態度、グループディスカッションの積極的な姿勢(相手の意見の理解や発言)など、総合的に勘案し評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	40%			
その他	60%				
履修上の 留意事項	一つひとつ大切な履修になります。体調管理をし休まないようにしましょう。日程調整をしながら進めます。順番は変わることがあります。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	目標設定	個人目標設定とクラス目標の検討・決定		
	2	学科交流会①	一年生を迎える会		
	3	検定対策	社会人常識マナー検定対策		
	4	施設・地域理解	施設の働き、介護福祉士の役割について		
	5	卒業生による講話	介護福祉士の仕事、活躍の場の理解		
	6	学科交流会②	企画・運営		
	7	学科交流会③	卒業生を送る会		
	8	目標の振り返り	1年間を振り返り今後の抱負を考えることができる		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					